

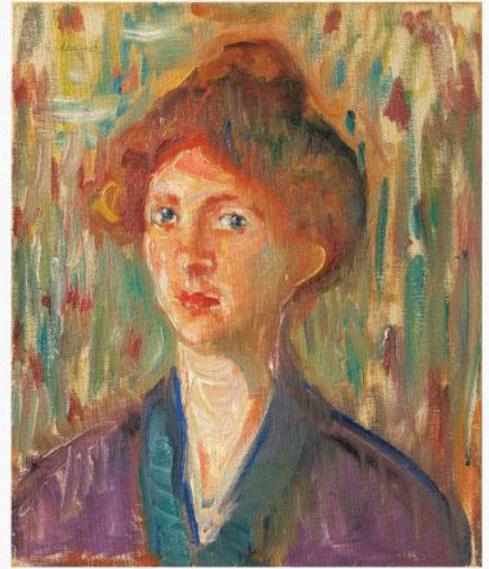
NHK

日曜美術館

NHK Sunday Museum 50th Anniversary Exhibition

50

年展



見て、
知って、
もっと
好きになる。

© 2026 - Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)

2026 3.28 Sat >>> 6.21 Sun

東京藝術大学大学美術館

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

休館日：月曜日(ただし5月4日は開館) 開館時間：午前10時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)
主催：東京藝術大学、NHK、NHKプロモーション 企画協力：NHKエデュケーショナル
協賛：NISSHA



古今東西の作家、120点以上の名品、上野に集結！

NHK「日曜美術館」は、1976年の放送開始から2,500回を超える長寿番組です。2026年に50年を迎えるにあたり、これまで番組に登場した“美”の魅力を伝える展覧会を開催します。

本展では、番組を彩ってきた120点を超える名品を、5つの章で紹介します。あわせて、番組の出演者たちがつむいできた時代を超えて響く言葉を過去の放送から厳選して上映するとともに、高精細映像も組み合わせて、“美”と人をつないできた「日曜美術館」の歴史をご紹介します。

見どころ

- 1 / 放送50年を迎えるNHK「日曜美術館」を彩った、120点を超える名品を展示
西洋・日本の絵画や彫刻、浮世絵、屏風、土器、伝統工芸などジャンルを超えた名品が
勢揃い！
- 2 / 貴重な当時の番組映像・出演者たちがつむいできた言葉が展示室内に！
出展作品がどのように語られ、紹介されたのかを当時の映像や言葉とともに追体験出来
ます
- 3 / 第5章 作家の生き様と美～アトリエ&創作の現場では、創作現場の貴重な映像が登場！
制作中の作家の言葉・作品が生み出される瞬間を、作品と共に味わうことができます

日美50

「日曜美術館」は今年で50年。時を超えてなお心に響く古今東西の“美”と、時代をつなぐ架け橋となってきました。

ミュージシャンの坂本美雨さんと守本奈実アナウンサーが、新鮮な感動と共に“美との出会い”を届けます。

NHK「日曜美術館」番組サイト：<https://www.web.nhk.tv/an/nichibi/pl/series-tep-3PGYQN55NP>

E

日曜 午前9時～

日曜 午後8時～（再放送）



※日曜美術館は、1997年から2009年にかけてタイトルを「新日曜美術館」としていましたが、本展ではあわせて「日曜美術館」とします。

*表紙

左上から時計回りに:

パブロ・ピカソ《黄色い背景の女》1937年 東京ステーションギャラリー蔵

エドヴァルド・ムンク《ミスナー嬢の肖像》1907年 ひろしま美術館蔵

石田徹也《飛べなくなった人》1996年 静岡県立美術館蔵

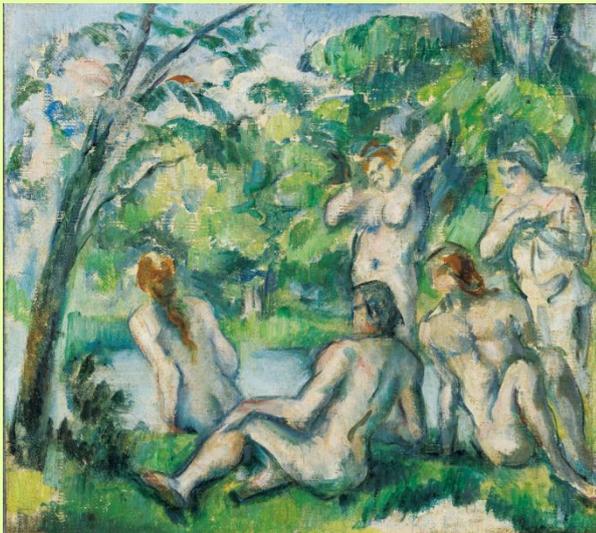
アルベルト・ジャコメッティ《ヤナイハラI》1960-61年 国立国際美術館蔵 撮影:福永一夫

《縄文土器 深鉢 火焰型土器》新潟県長岡市 岩野原遺跡出土 縄文時代(中期) 國學院大學博物館蔵

第1章 語り継ぐ美 ～時を超えて美を語る言葉・語らせる作品

1976年4月、日曜美術館は「私と〇〇」という企画で放送を開始しました。各界の第一線で活躍するゲストが、敬愛する作家や作品への思いを語り、美の本質や創作の背景に迫る内容でした。彼らは「美の語り部」として、言葉にならない美を言葉でつむぎ、私たちと作家をつなぐ架け橋となりました。その言葉は、美を味わう手引きであると同時に、「人間とは」「自然とは」「生きるとは」といった根源的な問いへの入口でもありました。50年を経た今も、「美を語る言葉」を大切に伝えるという精神は息づいており、繰り返し取り上げられる作家や名品も多くあります。一人のゲストが同じ作家を30年後に再び語ることもあり、語りの熱は時代を超えて受け継がれています。それは作品自体が「語らせる」力を持ち、人々に感動と表現への衝動を呼び覚ます証です。名品と語り部の言葉が重ねた50年の美の軌跡は、今なお新たな感動を生み続けています。

大江健三郎が語るフランシス・ベーコン、舟越保武が伝える松本竣介、モデルとなった矢内原伊作が伝えるアルベルト・ジャコメッティなど、各界の第一線で活躍するゲストの言葉と古今東西の作家と作品をご紹介します。



セザンヌ×吉田秀和（音楽評論家）

水浴図というのが自然の中にあるものを再現したような絵であるどころか、彼が求めていたあるいは心の中でみていたあるファンタスティックな世界の絵画的実現だ。

音楽評論家 吉田秀和

1996年12月1日放送

「セザンヌはなぜ“水浴図”を描いたか」より

ポール・セザンヌ《水浴》
1883-87年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵

ロダン×舟越桂（彫刻家）

ロダンの技術はすごい、イメージ力というのか、彫刻に物語を組み入れていくときの発想力がすごいと思う。

彫刻家 舟越桂

2009年6月14日放送 「ロダン 新たな生命の探求者」より

オーギュスト・ロダン《考える人》
1880年 静岡県立美術館蔵





ジャコメッティ×矢内原伊作（哲学者）

ジャコメッティのそういう真実を追求してやまない情熱っていうか。それこそ真剣な仕事のしかた、あるいは生き方そういったものに非常に私は感動した。

哲学者 矢内原伊作

アルベルト・ジャコメッティ《ヤナイハラI》
1960-61年 国立国際美術館蔵 撮影：福永一夫



作品のモデルとなった矢内原伊作本人がジャコメッティを語る
1977年6月12日放送 「私とジャコメッティ」 より



岸田劉生《椿君に贈る自画像》
1914年 東京都現代美術館蔵

岸田劉生×会田誠（美術家）

強い意思を感じますね。筆先にこう、力がこもっている。こうねりねりと、練り込むような感じで。決意がこもったような独特な圧がありますよね。俺、俺を見ろ！みたいな。俺が俺であることが大切だというアピールっていうか。

美術家 会田誠

2019年9月29日放送 「異端児、駆け抜ける!岸田劉生」 より

石田徹也×大槻ケンヂ（ロックミュージシャン）

幼い頃の「未来に対して、人生に対して不安だ」みたいな、みんなが持っているそういうモノを彼が一身に引き受けて絵にしていたかのようなイメージを僕は受けましたね。

ロックミュージシャン 大槻ケンヂ

2006年9月17日放送 「悲しみのキャンパス 石田徹也の世界」 より



石田徹也《飛べなくなった人》1996年 静岡県立美術館蔵



松本峻介《並木道》
1943年 東京国立近代美術館蔵

松本峻介×舟越保武（彫刻家）

少しほかの風景と違ったかわいらしいというおかしさが、ほとんどの人はこれが好き。ルソーと共通したものが、素朴なものが出ているし、あそこ歩いているのは峻介という風に私は見えます。いつもひとりで歩いてましたから。非常にきれいな統一された雰囲気をもってありますね。

彫刻家 舟越保武

1977年10月23日放送 「私と松本峻介」 より

第2章 日本美の再発見 古代から明治まで

1950年代の岡本太郎による縄文の美の再発見、1970年代の辻惟雄による江戸の奇想絵画の評価、そして琳派や浮世絵を現代アーティストが再解釈する動きなど、日本美術には、時代や人物の視点によって新たな光を放つ魅力があります。1976年に始まった「日曜美術館」は、放送初期から北斎や若冲を紹介してきましたが、2016年の若冲展では空前の行列が生まれ、日本美の再評価を象徴しました。2000年代以降は奇想の絵師の特集が増え、「“にっぽん”美の旅」シリーズでは井浦新さんの企画により縄文の美が数多く取り上げられました。縄文の造形力、奇想の強烈さ、浮世絵の多様な表現には、創造した芸術家の情熱とともに、受け止めた庶民の生命力が宿っています。そこには、日本の美の源流を自らの中に再発見する可能性が感じられます。

村上隆、大野一雄、井浦新らがつむぐ言葉で、縄文土器・土偶、伊藤若冲、曾我蕭白、葛飾北斎など、日本美術の名品が再び輝きだします。



縄文土器×富永愛（モデル・俳優）

きっと今より厳しい環境で生きて、その中でもちょっとした楽しみとか、喜び、幸せというものをより噛み締めて、より大事にして生きてるんだろうなと思うと、アートっていうものがそれに寄り添ってきたんじゃないかなと思いますね。やっぱり人って生きてる中でどうしてもアートしちゃうんじゃないかなって思います。

モデル・俳優 富永愛

2026年1月4日放送「放送開始50年特集 時を超え 美を語る」より

《縄文土器 深鉢 火焰型土器》
新潟県長岡市 岩野原遺跡出土 縄文時代（中期）
國學院大學博物館蔵



曾我蕭白×大野一雄（舞踏家）

蕭白は私の大先生。なぜなら非常に粗放、あらっぽくみえるけど非常に繊細。目を見ても繊細極まる目だけど、普通目じゃなくて、浮世をのぞき見しているような。宇宙の構造というか私の構造というか、そういうものとの出会いのような感じで、極まりなく感動をいつも受けさせてもらっている。先生のおかげですよ。

舞踏家 大野一雄

1997年2月16日放送「奇想の魂 大野一雄・蕭白を舞う」より

曾我蕭白《柳下鬼女図屏風》
江戸時代・18世紀 東京藝術大学蔵
[後期展示：5月12日(火)～6月21日(日)]

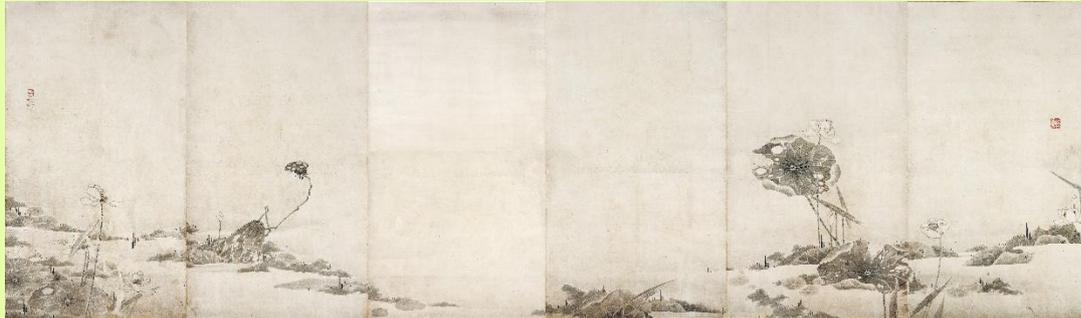
伊藤若冲×村上隆（アーティスト）

東京展のみ

世界を全部自分の手元に捕まえたいという欲求が投影されてる。リアルな自分と等身大の世の中を自分の中に取り込みたいという心の平静の境地がこの作品にある。

アーティスト 村上隆

2000年11月12日放送「奇は美なり 若冲・細密の世界」より



重要文化財 伊藤若冲
《蓮池図》江戸時代・
天明9年(1789)
大阪・西福寺蔵
[後期展示:5月12日
(火)~6月21日(日)]

月岡芳年×榎図かずお（漫画家・芸術家）

弁慶の足元、ドキッとさせる。ポーズも普通の人は描かない、ドラマチックですよ。今生きていたら映画とか漫画とか作っていきそうだな。

漫画家・芸術家 榎図かずお

1999年5月16日放送「最後の浮世絵師 月岡芳年 怪奇の美」より



月岡芳年《義経記五條橋之図》
明治14年(1881)
横浜美術館蔵(加藤栄一氏寄贈)

長沢芦雪×井浦新（俳優）

清々しさというか、作為をまったく感じさせない。あんな表現が自分もいつか出来たらって。やっぱり素直であった方が、何事もうまくいくんじやないかなって思うんですよ。学び続けながら、その分ちゃんとしていくことが出来る場が、役者の仕事であり、ものづくりの仕事であり。だからちゃんとそこを謙虚な気持ちで素直に。本当に芦雪が、間違っていないよっていつか来てみたいな。



松江市指定文化財 長沢芦雪《龍圖襖絵(雲龍図)》
江戸時代・18世紀 島根・西光寺蔵
[前期展示:3月28日(土)~5月10日(日)]

俳優 井浦新

2014年6月8日放送

「紀州へ 長沢芦雪×井浦新」より

第3章 工芸 伝統と革新

50年間、日曜美術館が継続して取り上げてきたのが「工芸」です。1976年の「日本伝統工芸展」から始まり、翌年からは「正倉院展」も放送し、日本の優れた工芸美術を紹介してきました。番組では、正倉院の宝物や、各時代を代表する匠たちの制作風景、そして技と素材に真摯に向き合う姿が映像として残されています。その中には、後に人間国宝となる職人たちの若き日の挑戦や、親から子へと受け継がれる技の葛藤、厳しい時代にも続く伝統継承の奇跡が映し出されています。近年は明治から現代に至る超絶技巧にも注目し、過去の名工の技に学びつつ新たな表現を探る若手作家たちを紹介しています。自然と深く結びついた日本の工芸の誇りと精神は、今なお匠たちの手の中で脈々と受け継がれているのです。

正倉院宝物(模造)、松田権六、室瀬和美、森口華弘・邦彦、安藤緑山、塩見亮介などの名品をご紹介します。

正倉院



吉田立斎《模造 金銀平脱八角鏡》
1932年 東京国立博物館蔵
【後期展示:5月12日(火)~6月21日(日)】

親子代々



森口華弘《友禅訪問着「梅園」》
1997年 京都国立近代美術館蔵
【前期展示:3月28日(土)~5月10日(日)】



森口邦彦《友禅着物楔形漸層文「新雪」》
1986年 広島県立美術館蔵
【前期展示:3月28日(土)~5月10日(日)】

人間国宝



室瀬和美 (漆芸家)

東京展のみ

作品の中に1つの空気を流してみようって、そういう構想が自分の心の中にあるんです。

漆芸家 重要無形文化財「蒔絵」保持者 室瀬和美

1985年9月29日放送「美と技と用 第32回日本伝統工芸展から」より

室瀬和美《蒔絵飾箱「麦穂」》1985年 個人蔵

超絶技巧



安藤緑山×前原冬樹 (彫刻家)

抜群にかっこいい。曲面に正確な線をいれるのはかなり難しい。だからその筋の正確さとかずっとみていたいぐらいすごい。

彫刻家 前原冬樹

2014年5月11日放送「明治の工芸 知られざる超絶技巧」より

安藤緑山《竹の子に梅 牙彫置物》1912-40年 京都国立近代美術館蔵 撮影:木村羊一



塩見亮介 (鍛金家)

明治工芸や江戸の名工も、すごい人たちがいっぱいいて、過去の人とも常に勝負してる、未来にもすごい人たちが出てくるだろう。そういう人たちとも勝負してる。

鍛金家 塩見亮介

2023年5月14日放送「現代の超絶技巧2」より

塩見亮介《白銀角鴞面附白絨毬袖》2022年 個人蔵

第4章 災いと美

2020年、コロナ禍により美術館が休館し、番組の継続も危ぶまれる中で日曜美術館は大きな危機を迎えました。しかし「美を届けることを止めない」という信念のもと、過去の映像を活用した「蔵出し日本絵画・西洋絵画シリーズ」や、困難な時にこそ分かち合いたい作品を紹介する「#アートシェア」などが生まれました。中でも「疫病をこえて 人は何を描いてきたか」は、災いと人間の表現の関わりを美の視点から見つめ直す象徴的な番組でした。古来より人は災厄に向き合う中で美を通してそれを理解し、昇華してきたことが明らかになり、社会の災害や戦争にも同様の姿勢が見られます。戦争体験や自然災害の惨状と対峙しながら、創作を通して真摯に人間の在り方を問う作家たちの姿は、なぜ人は災いをも美で表現しようとするのかという根源的な問いを私たちに投げかけ、美の持つ無尽蔵の力を改めて感じさせるものです。

本章では、災いと向き合い、理解し、受け止めるために美が果たしてきた役割とその力を考えます。香月泰男、靨光、野見山暁治、石内都などの作品とあわせてパブロ・ピカソの傑作「ゲルニカ」を原寸大高精細映像で展示します。

■疫病



アマビエ×小野正嗣（作家）

健康に楽しく周りの人と出会い言葉を交わし合いながら美術について語り、笑ったりすることがどれほど人間にとって本質的な活動かと強く感じられる。

作家 小野正嗣

2020年4月19日放送「疫病をこえて 人間は何を描いてきたか」より

作者不明《肥後国海中の怪》1846年 京都大学附属図書館蔵 [前期展示:3月28日(土)~5月10日(日)]

東京展のみ

■戦争



香月泰男（画家）

僕は国家というよりも、国家の原点にあるひとつの家庭というものを大事だと思うんです。国家という目に見えないものは、僕は納得いかない。

1979年8月12日放送「私と香月泰男」より

香月泰男《青の太陽》1969年 山口県立美術館蔵

ピカソ×岡本太郎（画家）

全部がそれに向かって殺されている、悲しんでいる、叫んでいる、馬までが絶望している。ここにあるのはすごいコンポジション。非常にモダンであると同時に、古典的な要素ももっていて、ピタッと締まっている。

画家 岡本太郎

1980年2月3日放送「私とピカソ」より

パブロ・ピカソ【原寸大高精細映像】ゲルニカ
1937年 NHK

原寸大高精細映像展示



© 2026 - Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN) 提供: Bridgeman Images/アフロ

■自然災害



野見山暁治（画家）

悲しいとか何とかとか、なんか違う。人間に限らず生物というものはかないもの。大きな中でただうごめいているだけ なす術がない。

2014年3月9日放送「行き暮れてひとり ~画家 野見山暁治のアトリエ日記~」より

野見山暁治《ある歳月》2011年 福島県立美術館蔵

第5章 作家の生き様と美 ～アトリエ&創作の現場

作家のアトリエは、歓喜や苦悩、葛藤、孤独といったあらゆる感情が交錯する、美の舞台裏です。日曜美術館では1980年から「アトリエ訪問」シリーズを通して、多くの作家の創作現場を紹介してきました。散乱した空間もあれば道場のように整然とした場もあり、そこには作家それぞれの生き様と個性が刻まれています。作品がまさに誕生する瞬間に立ち会うことは、創造の核心に触れる特別な体験です。日常の何気ない出来事から着想を得る姿には、作家の内面や秘密を垣間見る喜びがあります。また、制作過程で語られる言葉の一つひとつには、創造という行為の深い意味が宿っています。見えないものを描こうとする探究や、人間や社会、自然への思索は、美を超えて生き方そのものを問う“美の哲学”といえます。アトリエという聖域での濃密な時間がある限り、新たな美が生まれ、世界に光をもたらし続けるのです。

岡本太郎、柚木沙弥郎、志村ふくみ、加山又造、李禹煥、舟越桂、諏訪敦、山口晃など、放送時の映像とともに制作の過程で作家が語る言葉に耳を傾けながら、創造という行為の深淵を感じてみてください。



柚木沙弥郎（染色家）

うれしけりゃいいんだよ、なんでもおもしろいなって思って、たまたま。
天気がよくて、ぱーっとした日が日曜日だっでごらんない、だれでもこう
なんでも愉快じゃない。そういう状態であれば、なんでも新鮮にみえるでしょ。

2018年6月3日放送

「うれしくなくちゃ 生まれない 染色家 柚木沙弥郎の模様人生」より

柚木沙弥郎《いのちの樹》2018年 松本市美術館蔵

東京展のみ

志村ふくみ（染織家）

色にいのちがあるってことを教えてくれたのは藍ですよ。そういうものがなかったら、色は色ですよ。でも私は色は色ではないんじゃないかという思いで色を染めてる、色を出してるっていう感じですよ。

2005年12月4日放送

「京のいろ” ごよみ 染織家・志村ふくみの日々 冬から春へ」より

志村ふくみ《湖上夕照》1979年 滋賀県立美術館蔵
[後期展示:5月12日(火)~6月21日(日)]





李禹煥（現代美術家）

ほんの最小限の行為が最大限の大きな世界との響きあいになることに望みをかけるわけです。

2005年12月4日放送

「出会いの芸術を求めて ～李禹煥 半世紀の挑戦～」より

李禹煥《照応》1998年 静岡県立美術館蔵



岡本太郎《遭遇》1981年 川崎市岡本太郎美術館蔵

岡本太郎（画家）

職業なんてないだど。人間だど。

誰だって人間だから、芸術だど。

芸術家じゃなくて、芸術だど。

セクションのなかに入ってることが芸術じゃないんですよ。

全人間的に生きることが芸術なんです。



1981年3月8日放送「アトリエ訪問 岡本太郎」より

山口晃（画家）

シャッター商店街問題になっているけれど、これ描いて何になるんだっていうわけじゃないが、

ふるさとの絵を一枚描いておこうかしら、描く時にそこは画題をぴりっと利かせたいというのもありまして。

ショッピングモールっていうのは、巨大さをみると街が一つできちゃったような。あそこまで大きいと街でいいんじゃないかしらと。

普通の商店街に壁作って屋根をかけて、「あれ？新しいショッピングモールだわ」とか言ってね。ショッピングも出来るじゃないかしらとまちがった人がきて流行りやしないかと。空想は空想ですけど、そういうしたたかな生き残り戦略じゃないですけど。

2015年4月19日放送「画伯！あなたの正体は？ドキュメント・山口晃」より



山口晃《ショッピングモール》2015年～
桐生市（大川美術館寄託）

*会期中、一部作品の展示替えがあります。

【音声ガイド】

音声ガイドナビゲーターは「日曜美術館」の司会を務めた俳優の檀心みさんと井浦新さんが、古今東西の“美”の魅力をお伝えします。会場レンタル版：700円（税込） アプリ版：800円（税込）*アプリ版では、展示替えを含めた全ガイドを収録予定。



檀心み（俳優・司会者・エッセイスト）*2006年4月～2009年3月まで司会を担当

東京都出身。作家の檀一雄を父に持つ。高校在学中に俳優としてデビュー。映画やドラマなど、数多くの作品に出演。エッセイも好評で、「ああ言えばこう言う」（阿川佐和子との共著）は講談社エッセイ賞を受賞。NHKの名物クイズ番組だった『連想ゲーム』の名解答者として長年脚光を浴び、『N響アワー』『新日曜美術館』などの司会も務めた。大河ドラマ『春の波濤』『花の乱』『花燃ゆ』にも出演。また、『日めくり万葉集』の語りや連続テレビ小説『とと姉ちゃん』のナレーションでも高く評価された。そのほか出演作に、ドラマスペシャル『日本の面影』、BS日曜ドラマ『藏』、アメリカKCE TとNHKとの共同制作ドラマ「エドとハル」（邦題）などがある。



井浦 新（俳優、モデル、デザイナー）*2013年4月～2018年3月まで司会を担当

1974年生まれ、東京都出身。98年に映画『ワンダフルライフ』に初主演。『かぞくのくに』でブルーリボン賞助演男優賞を受賞。映画を中心にドラマ、ナレーションなど幅広く活躍。主な出演作に、映画『実録・連合赤軍 あさま山荘への道程』、『光』『ニワトリ☆スター』、『止められるか、俺たちを』シリーズ、『福田村事件』など。NHKは大河ドラマ『平清盛』、スペシャルドラマ『返還交渉人～いつか、沖縄を取り戻す～』、連続テレビ小説『なつぞら』などに出演、Eテレ『日曜美術館』の司会も務めた。2024年大河ドラマ『光る君へ』では、藤原道長の長兄・藤原道隆を演じた。

【チケット】

	一般	高校生・大学生
当日	2,000円	1,200円
前売	1,800円	1,000円

*中学生以下無料。

*障がい者手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料（入館の際に障がい者手帳などをご提示ください）。

*前売券は1月28日（水）から3月27日（金）まで、展覧会公式サイト、各種プレイガイドほかで販売。

春爛漫！期間限定 大学生以下無料デー

3月31日（火）～4月10日（金）までの平日に限り大学生以下のみなさんは無料で本展を観覧いただけます。ぜひこの機会にご来場ください。*中学生以下は期間を通して無料です。*高校生・大学生チケット対象者は学生証をご持参ください。

音声ガイド付き前売り券

当日購入より400円お得に展覧会と音声ガイドをお楽しみいただけるチケットです。

価格 2,300円

販売場所 展覧会公式サイト、各種プレイガイド

販売期間 2026年1月28日（金）～3月27日（金）

【開催概要】 ■東京会場

展覧会名	和 NHK日曜美術館50年展 英 NHK Sunday Museum 50th Anniversary Exhibition
会場	東京藝術大学大学美術館（東京・上野） 〒110-8714 東京都台東区上野公園12番8号
会期	2026年3月28日（土）～6月21日（日）
開館時間	10:00～17:00（※入館は閉館の30分前まで）
休館日	月曜日（ただし5月4日は開館）
主催	東京藝術大学、NHK、NHKプロモーション
企画協力	NHKエデュケーショナル
協賛	NISSHA
公式サイト	https://nichibiten50.jp/
お問い合わせ	050-5541-8600（ハローダイヤル） *午前9時～午後8時、年中無休
巡回情報	■静岡会場 2026年7月～9月（予定） 静岡県立美術館 ■大阪会場 2026年10月10日（土）～12月20日（日） 大阪中之島美術館

（報道関係の方からの本件に関するお問い合わせ）

「NHK日曜美術館50年展」広報事務局（ユース・プランニングセンター内）担当：平野・芦田・池袋

E-mail: nichibiten50@yppcr.com

NHK日曜美術館50年展

広報画像申請用紙

会場：東京藝術大学大学美術館（東京・上野） 会期：2026年3月28日（土）～6月21日（日）

- 本展広報目的での使用に限ります。使用可能期間は本展会期終了までとなります。
- 展覧会名、会期、会場名ほか画像クレジットを必ず掲載してください。
- 画像は全図で使用してください。部分使用などのご希望がある場合には、広報事務局へお問い合わせください。
- ウェブサイトにご掲載の場合は、コピーガード（※右クリック不可等）を施し、ダウンロードを不可にしてください。コピーガード対応が出来ない場合には、解像度を下げた画像をご用意しております。申請書にチェックのうえご提出願います。
- 本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はその都度申請くださいますようお願いいたします。
- 本展終了後の掲載、画像の二次使用はできません。速やかに破棄をお願いいたします。
- 基本情報と画像使用の確認のため、グラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録データを、本展広報事務局へ1部お送り願います。
- 画像使用後は、データの破棄をお願いいたします。

■広報画像

<p>1. キービジュアル</p> 	<p>2. ポール・セザンヌ《水浴》</p> 	<p>3. アルベルト・ジャコメッティ《ヤナイハラ1》</p> 	<p>4. オーギュスト・ロダン《考える人》</p> 	<p>5. エドヴァルド・ムンク《マイスナー嬢の肖像》</p> 
<p>6. 石田徹也《飛べなくなった人》</p> 	<p>7. 《縄文土器 深鉢 火焰型土器》 新潟県長岡市 岩野原遺跡出土</p> 	<p>8. 重要文化財 伊藤若冲《蓮池図》</p> 	<p>9. 月岡芳年《義経記五條橋之図》</p> 	
<p>10. 室瀬和美《詩絵飾箱「麦穂」》</p> 	<p>11. 安藤緑山《竹の子に梅 牙彫置物》</p> 	<p>12. 塩見亮介《白銀角鴉面附白絲絨兜袖》</p> 	<p>13. 作者不明《肥後国海中の怪》</p> 	
<p>14. 香月泰男《青の太陽》</p> 	<p>15. 柚木沙弥郎《いのちの樹》</p> 	<p>16. 岡本太郎《遭遇》</p> 	<p>17. 山口晃《ショッピングモール》</p> 	

次のページへ続く



NHK日曜美術館50年展

広報画像申請用紙

会場：東京藝術大学大学美術館（東京・上野） 会期：2026年3月28日（土）～6月21日（日）

■広報画像(ご希望の画像にチェックを入れてください。)

No.	【ご掲載時に必要なクレジット表記】
<input type="checkbox"/>	1 チラシビジュアル ※クレジット不要
<input type="checkbox"/>	2 ポール・セザンヌ 《水浴》 1883-87年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵
<input type="checkbox"/>	3 アルベルト・ジャコメッティ 《ヤナイハラI》 1960-61年 国立国際美術館蔵 撮影：福永一夫
<input type="checkbox"/>	4 オーギュスト・ロダン 《考える人》 1880年 静岡県立美術館蔵
<input type="checkbox"/>	5 エドヴァルド・ムンク 《マイスナー嬢の肖像》 1907年 ひろしま美術館蔵
<input type="checkbox"/>	6 石田徹也 《飛べなくなった人》 1996年 静岡県立美術館蔵
<input type="checkbox"/>	7 《縄文土器 深鉢 火焰型土器》 新潟県長岡市 岩野原遺跡出土 縄文時代（中期） 國學院大學博物館蔵
<input type="checkbox"/>	8 重要文化財 伊藤若冲 《蓮池図》 江戸時代・天明9年（1789） 大阪・西福寺蔵 ※後期展示:5月12日(火)～6月21日(日)
<input type="checkbox"/>	9 月岡芳年 《義経記五條橋之図》 明治14年（1881） 横浜美術館蔵（加藤栄一氏寄贈）
<input type="checkbox"/>	10 室瀬和美 《蒔絵飾箱「麦穂」》 1985年 個人蔵
<input type="checkbox"/>	11 安藤緑山 《竹の子に梅 牙彫置物》 1912-40年 京都国立近代美術館蔵 撮影：木村羊一
<input type="checkbox"/>	12 塩見亮介 《白銀角鴉面附白絲織兜袖》 2022年 個人蔵
<input type="checkbox"/>	13 作者不明 《肥後国海中の怪》 1846年 京都大学附属図書館蔵 ※前期展示:3月28日(土)～5月10日(日)
<input type="checkbox"/>	14 香月泰男 《青の太陽》 1969年 山口県立美術館蔵
<input type="checkbox"/>	15 柚木沙弥郎 《いのちの樹》 2018年 松本市美術館蔵
<input type="checkbox"/>	16 岡本太郎 《遭遇》 1981年 川崎市岡本太郎美術館蔵
<input type="checkbox"/>	17 山口晃 《ショッピングモール》 2015年～ 桐生市（大川美術館寄託）

■貴媒体について

下欄にご記入いただいた個人情報は、本展覧会広報用写真貸出の目的にのみ使用し、それ以外の用途には使用しません。

貴社名			
媒体名	掲載コーナー、特集名（ ）		
※WEB掲載を予定している場合はチェックをお願いします	コピーガード対応	可	不可
掲載月号	月	日	発売（号） / 発行部数 部
ご担当者名	E-mail:		
連絡先	電話:	FAX:	
チケット希望	【東京会場】読者プレゼントとして 5組10名分を <input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 希望しない		
チケット送付先	〒		

【報道関係のお問合せ】

「NHK日曜美術館50年展」広報事務局

（ユース・プランニング センター内）担当：芦田・平野・池袋

TEL：03-6821-8445 FAX：03-6821-8869 E-mail：nichibiten50@ypcpr.com